

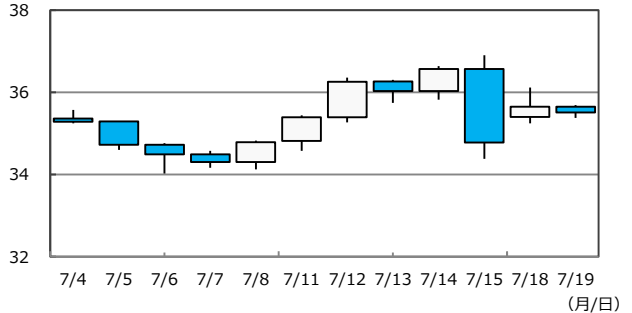
今日のトピック トルコでクーデター未遂

国民のエルドアン大統領支持の高さを再確認

ポイント1 クーデターは未遂に

■ 現地15日夜、トルコで軍の一部勢力がクーデターを試みました。エルドアン大統領の休暇中を狙ったこの試みは、一時、クーデター勢力が「国の権力を完全に掌握した」と宣言する等、政府転覆の可能性が懸念されましたが、政府側の対応とエルドアン大統領の呼びかけに応じた市民の反対もあってほぼ鎮圧され、未遂に終わったと考えられます。

【円/トルコリラ相場の推移】

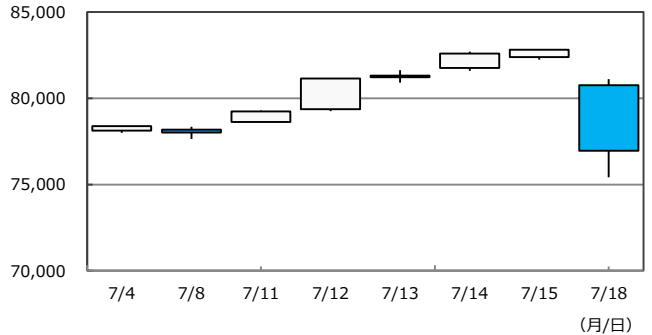


(注) データは2016年7月4日～2016年7月19日(日本時間正午)。青はその日の自国通貨の下落、白抜きは上昇を示す。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 クーデターを受けリラ下落
トルコ株も大幅安

■ クーデターの発生を受け、トルコリラは対ドル、対円ともに売られ、対ドルでは2.89リラ付近から一時3.05リラ付近へ約5.5%下落し、対円では36.5円付近から34.4円付近へ約5.8%下落しました。週明け月曜日(7/18)のトルコ株式市場も下落し、イスタンブール100種指数は前日比7.1%安となりました。いずれも、トルコに対する投資家心理の冷え込みが表れました。

【トルコ株の推移】



(注) データは2016年7月4日～2016年7月18日。トルコ株はイスタンブール100種指数。青はその日の価格の下落、白抜きは上昇を示す。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 エルドアン大統領は政治基盤を更に強化へ

■ クーデターが比較的短期間で収まったため、リラ相場はその後反発し、今のところ当初の下落を半分ほど埋める程度に回復しています。また、世界的にも金融市場の混乱には結びつかず、今回のクーデター未遂事件の影響はかなり限定的なものにとどまったと言えます。

■ エルドアン大統領は、今回のクーデター未遂事件を自身の政治基盤の更なる強化に活用する模様です。また、大統領に対する国民の支持の高さが改めて示されており、短期的には事態の不安定化のリスクは低いと考えられます。中長期的には、エルドアン大統領がいかにトルコ国内の反対勢力を取り込んで行けるかが鍵となりそうです。

**ここも
チェック!**

2016年6月22日 トルコの金融政策(2016年6月) 金利誘導レンジ上限を引き下げ
2016年5月26日 トルコの金融政策「3つの政策金利」

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。